



ガリレオ

（注）「ガリレオ」はゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社の登録商標です。

追加型投信／内外／債券

第39期（決算日2016年10月20日）

作成対象期間:2016年4月21日～2016年10月20日

第39期末（2016年10月20日）		第39期	
基準価額	9,580円	騰落率	-0.39%
純資産総額	7,465百万円	分配金合計	40円

（注）騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したもののみなして計算したものです。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券・通貨への分散投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。債券市場の国別配分、および通貨配分はゴールドマン・サックスが開発した3つの計量モデルを組み合わせることで用いることにより決定し、ポートフォリオを構築します。
主要投資対象	
本ファンド	ガリレオ・マザーファンドの受益証券
ガリレオ・マザーファンド	日本を含む世界各国の債券および通貨
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②本ファンドおよびマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の70%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合については、特に制限を設けません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎年4月20日および10月20日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「ガリレオ」は、このたび、第39期の決算を行いました。本ファンドは、独自開発の計量運用モデルを用い、日本を含む世界の先進国の債券および通貨に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先：03-6437-6000（代表）
受付時間：営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

■最近5期の運用実績

決 算 期	基準価額 (分配落)	税引前 分配金	期 中 騰落率	ベンチマーク	期 中 騰落率	債 券 組入比率	債 券 先物比率	純資産 総 額
	円	円	%		%	%	%	百万円
35期(2014年10月20日)	9,531	40	2.0	14,886	2.9	78.8	12.6	9,073
36期(2015年4月20日)	9,735	40	2.6	15,368	3.2	79.9	5.9	8,645
37期(2015年10月20日)	9,561	40	△1.4	15,238	△0.9	76.5	18.1	8,144
38期(2016年4月20日)	9,658	40	1.4	15,669	2.8	70.5	38.9	7,876
39期(2016年10月20日)	9,580	40	△0.4	15,803	0.9	65.9	35.7	7,465

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%) は、1997年4月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

■当期中の基準価額と市況推移

年 月 日	基準価額	騰落率	ベンチマーク	騰落率	債 券 組入比率	債 券 先物比率
(期 首)	円	%		%	%	%
2016年4月20日	9,658	—	15,669	—	70.5	38.9
4月末	9,601	△0.6	15,628	△0.3	70.6	31.1
5月末	9,590	△0.7	15,695	0.2	68.8	21.9
6月末	9,723	0.7	15,971	1.9	64.2	25.4
7月末	9,735	0.8	16,005	2.1	65.9	38.1
8月末	9,708	0.5	15,947	1.8	65.6	37.2
9月末	9,679	0.2	15,919	1.6	65.1	42.0
(期 末)						
2016年10月20日	9,620	△0.4	15,803	0.9	65.9	35.7

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

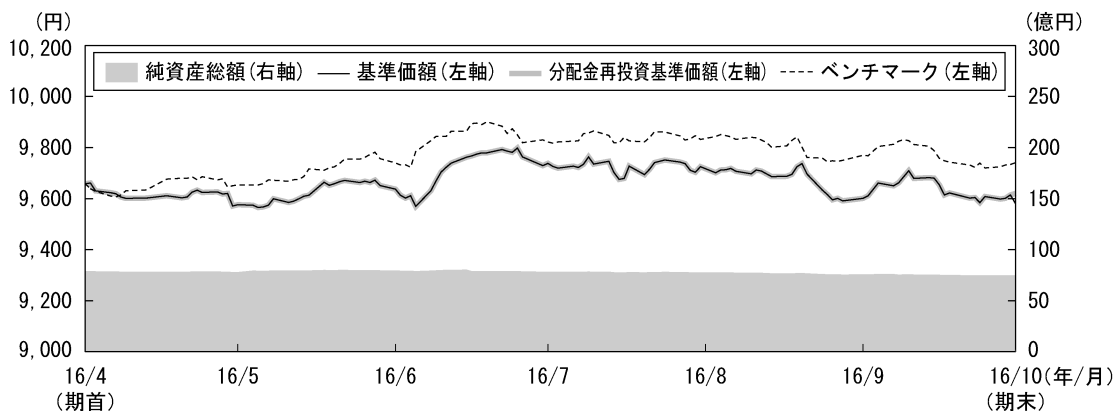
(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%) は、1997年4月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

運用経過

■基準価額等の推移について（2016年4月21日～2016年10月20日）



- (注1) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替円ヘッジ、円ベース）80% + 1ヵ月円LIBOR20%です。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の9,658円から78円下落し、期末には9,580円となりました。

上昇要因

ベンチマーク構成国の債券価格が総じて上昇（利回りは低下）したことや債券国別配分戦略および資産間配分戦略のプラス寄与などが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

通貨配分戦略のマイナス寄与や分配金をお支払いしたことなどが基準価額の下落要因となりました。

■投資環境について

<海外債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは概ね低下しました。

期の前半は、5月の米雇用統計における非農業部門雇用者数が市場予想を下回り、米国の利上げ観測が後退したことや、英国の国民投票がE U（欧州連合）離脱に決したことなどから、利回りは低下しました。期の後半は、米国の概ね堅調な経済指標やF R B（米連邦準備制度理事会）高官の発言などから米国の利上げ時期を見極める流れとなり、緩やかな上昇傾向となりましたが、期を通じては低下する結果となりました。

<外国為替市場>

外国為替市場では、主要通貨が対円で下落しました。

期初から7月上旬にかけては、米国の早期利上げ観測が後退した一方で、日銀が追加緩和を見送ったことや、英国のE U離脱決定を受けて安全資産とされる円の需要が高まったことなどから、米ドル、ユーロともに円に対して下落する展開となりました。その後は、各国中央銀行の金融政策動向を巡って一進一退の展開となり、結局、米ドル、ユーロともに前期末より対円で下落して期を終えました。

■ポートフォリオについて

<本ファンド>

ガリレオ・マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

<本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行いました。

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率を機動的に変更しました。

債券国別配分戦略

当期の債券国別配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにプラスとなったものと推定しています。期の前半に英国をオーバーウェイトとしたことや、期を通じてドイツを概ねアンダーウェイトとしたことが主なプラス要因となりました。一方、期の後半にオーストラリアおよびフランスを概ねオーバーウェイトとしたことが主なマイナス要因となり、戦略全体としてはプラスとなりました。

通貨配分戦略

通貨配分戦略は、債券国別配分戦略とは独立して行います。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して弱気の見通しであれば、米国債券にはオーバーウェイトとすると同時に、米ドルをアンダーウェイトとするということになります。当期の通貨配分戦略は、本マザーファンドの

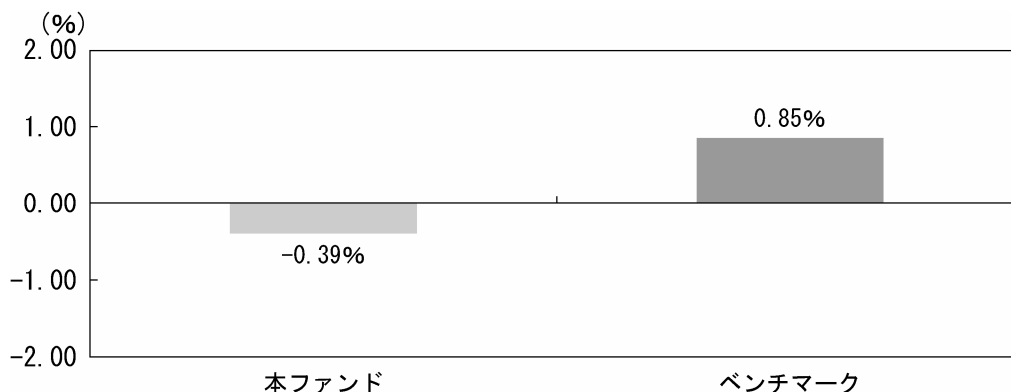
パフォーマンスにマイナスとなったものと推定しています。期を通じて英ポンドやユーロをアンダーウェイトとしたことなどがプラス要因となりましたが、期を通じてスウェーデン・クローナやノルウェー・クローネをオーバーウェイトとしていたことなどがマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

資産間配分戦略

世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略は、世界債券についてモメンタムの観点での評価などから期を通じてオーバーウェイトとしました。当期の資産間配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにプラスとなったものと推定しています。

■ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



（注）基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は－0.39％となり、ベンチマーク（＋0.85％）を下回りました。当期においては、債券国別配分戦略および資産間配分戦略がプラス寄与となった一方、通貨配分戦略がマイナス寄与となりました。

■分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は40円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

今後の運用方針について

<本ファンド>

今後も引き続き本マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

<本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行います。

債券国別配分戦略

債券国別配分戦略においては、イタリアやフランスに対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。イタリアに対してはモメンタムやマクロの観点から、フランスに対してはマクロの観点から強気の見通しとしています。一方、ドイツに対してはバリューの観点から、米国に対してはモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

通貨配分戦略

通貨配分戦略においては、ノルウェー・クローネやオーストラリア・ドルに対して強気の見通しとする一方で、ユーロやスイス・フランに対して弱気の見通しとしています。ノルウェー・クローネやオーストラリア・ドルに対してはバリューや資金フローの観点から強気の見通しとしています。一方、ユーロに対してはマクロの観点から、スイス・フランに対してはバリューの観点から弱気の見通しとしています。

資産間配分戦略

世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略では、世界債券に対してモメンタムの観点から強気の見通しとしています。

（上記見通しは2016年10月20日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

本ファンドのデータ

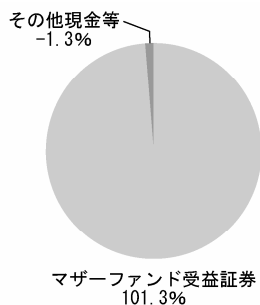
■本ファンドの組入資産の内容（2016年10月20日現在）

○組入れファンド

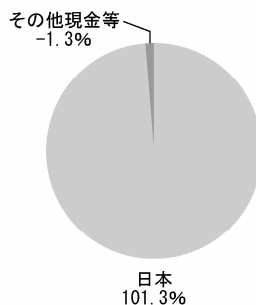
（組入銘柄数：1 銘柄）

ファンド名	比率
ガ リ レ オ ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	101.3%

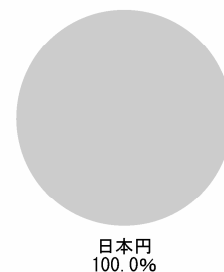
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分

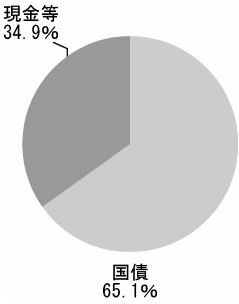


（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

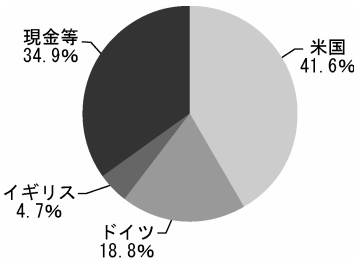
■組入上位ファンドの概要

ガリレオ・マザーファンド（2016年10月20日現在）

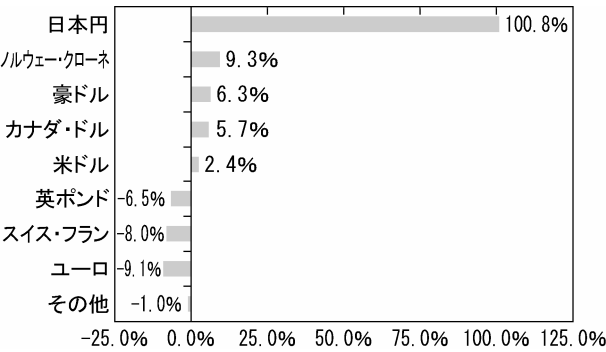
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：7銘柄）

	銘柄	種別	通貨	構成比
1	アメリカ国債 8.75% 2020年8月15日	国債	USD	20.9%
2	アメリカ国債 6.25% 2030年5月15日	国債	USD	18.9%
3	ドイツ国債 6.5% 2027年7月4日	国債	EUR	10.8%
4	ドイツ国債 6.25% 2024年1月4日	国債	EUR	8.0%
5	イギリス国債 4.5% 2042年12月7日	国債	GBP	2.5%
6	イギリス国債 8% 2021年6月7日	国債	GBP	2.2%
7	アメリカ国債 8% 2021年11月15日	国債	USD	1.9%
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—

（注1）資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のものです。

（注2）上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2016年4月21日～2016年10月20日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	79円 (37)	0.812% (0.379)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(37)	(0.379)	
(受託会社)	(5)	(0.054)	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	1 (1) (0)	0.009 (0.007) (0.002)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	2 (0) (0) (1)	0.021 (0.004) (0.002) (0.015)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	82	0.842	
期中の平均基準価額は9,672円です。			

- (注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。
- (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況 (2016年4月21日から2016年10月20日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ガ リ レ オ ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	122,643	174,836	433,454	626,323

■利害関係人との取引状況等 (2016年4月21日から2016年10月20日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細(2016年10月20日現在)

親投資信託残高

種 類	前期末	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ガ リ レ オ ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	5,560,619	5,249,808	7,561,298

(注) 単位未満切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年10月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ガ リ レ オ ・ マ ザ ー フ ァ ン ド	7,561,298	100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,985	0.0
投 資 信 託 財 産 総 額	7,563,283	100.0

(注1) ガリレオ・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（7,281,520千円）の投資信託財産総額（10,537,453千円）に対する比率は69.1%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは1米ドル=103.66円、1カナダドル=78.89円、1ユーロ=113.70円、1英ポンド=127.45円、1スイスフラン=104.76円、1オーストラリアドル=79.91円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末
	2016年10月20日
(A) 資 産	7,563,283,231円
ガリレオ・マザーファンド(評価額)	7,561,298,931
未 収 入 金	1,984,300
(B) 負 債	97,355,752
未 払 収 益 分 配 金	31,172,701
未 払 解 約 金	1,984,300
未 払 信 託 報 酬	63,260,208
そ の 他 未 払 費 用	938,543
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	7,465,927,479
元 本	7,793,175,388
次 期 繰 越 損 益 金	△ 327,247,909
(D) 受 益 権 総 口 数	7,793,175,388口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,580円

■損益の状況

項 目	当 期
	自2016年4月21日 至2016年10月20日
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	35,815,402円
売 買 益	46,555,289
売 買 損	△ 10,739,887
(B) 信 託 報 酬 等	△ 64,198,751
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△ 28,383,349
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 306,325,595
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	38,633,736
(配 当 等 相 当 額) (	282,163,714)
(売 買 損 益 相 当 額) (△	243,529,978)
(F) 計 (C + D + E)	△ 296,075,208
(G) 収 益 分 配 金	△ 31,172,701
次 期 繰 越 損 益 金 (F + G)	△ 327,247,909
追 加 信 託 差 損 益 金	38,633,736
(配 当 等 相 当 額) (	282,715,657)
(売 買 損 益 相 当 額) (△	244,081,921)
分 配 準 備 積 立 金	2,396,104,555
繰 越 損 益 金	△ 2,761,986,200

(注1) 損益の状況の中で (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注4) 収益分配金の計算過程において、マザーファンドの配当等収益を繰入れております。

(注5) 期首元本額は8,155,198,444円、当作成期間中において、追加設定元本額は182,330,954円、同解約元本額は544,354,010円です。

■分配金のお知らせ

決 算 期	第39期
1万口当たり分配金	40円

- ◇分配金には、課税扱いとなる普通分配金と、非課税扱いとなる元本払戻金(特別分配金)があります。
- ◇分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が元本払戻金(特別分配金)、残りの部分が普通分配金となります。
- ◇税率は、個人の受益者については原則20.315%（所得税15.315%、地方税5%）です。
- ◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。

■分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第39期
	2016年4月21日～2016年10月20日
当期分配金	40
(対基準価額比率)	0.416
当期の収益	40
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,437

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。
また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税引前)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



ガリレオ・マザーファンド

親投資信託

第30期（決算日2016年10月20日）

作成対象期間：2016年4月21日～2016年10月20日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
法令・諸規則に基づき、親投資信託(マザーファンド)の
期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げ
ます。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券・通貨への分散投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。債券市場の国別配分、および通貨配分はゴールドマン・サックスが開発した3つの計量モデルを組み合わせて用いることにより決定し、ポートフォリオを構築します。
主要投資対象	日本を含む世界各国の債券および通貨
組入制限	①株式への投資は、信託財産の純資産総額の70%以下とします。 ②外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー
お問合せ先：03-6437-6000（代表）
受付時間：営業日の午前9時～午後5時 | www.gsam.co.jp

■最近5期の運用実績

決 算 期	基準価額		ベンチマーク		債 券 組入比率	債 券 先物比率	純資産 総 額
		期 中 騰落率		期 中 騰落率			
	円	%		%	%	%	百万円
26期(2014年10月20日)	13,642	2.8	13,290	2.9	77.9	12.5	11,827
27期(2015年4月20日)	14,105	3.4	13,720	3.2	78.9	5.9	11,477
28期(2015年10月20日)	14,024	△0.6	13,604	△0.9	75.5	17.8	10,925
29期(2016年4月20日)	14,341	2.3	13,989	2.8	69.6	38.5	10,726
30期(2016年10月20日)	14,403	0.4	14,108	0.9	65.1	35.3	10,332

(注1) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%)は、2001年11月29日を10,000として指数化しております。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

■当期中の基準価額と市況推移

年 月 日	基準価額		ベンチマーク		債 券 組入比率	債 券 先物比率
		騰落率		騰落率		
(期 首)	円	%		%	%	%
2016年4月20日	14,341	－	13,989	－	69.6	38.5
4月末	14,261	△0.6	13,952	△0.3	70.6	31.1
5月末	14,266	△0.5	14,012	0.2	68.7	21.9
6月末	14,483	1.0	14,258	1.9	64.0	25.3
7月末	14,520	1.2	14,288	2.1	65.6	37.9
8月末	14,501	1.1	14,237	1.8	65.2	37.0
9月末	14,478	1.0	14,211	1.6	64.7	41.7
(期 末)						
2016年10月20日	14,403	0.4	14,108	0.9	65.1	35.3

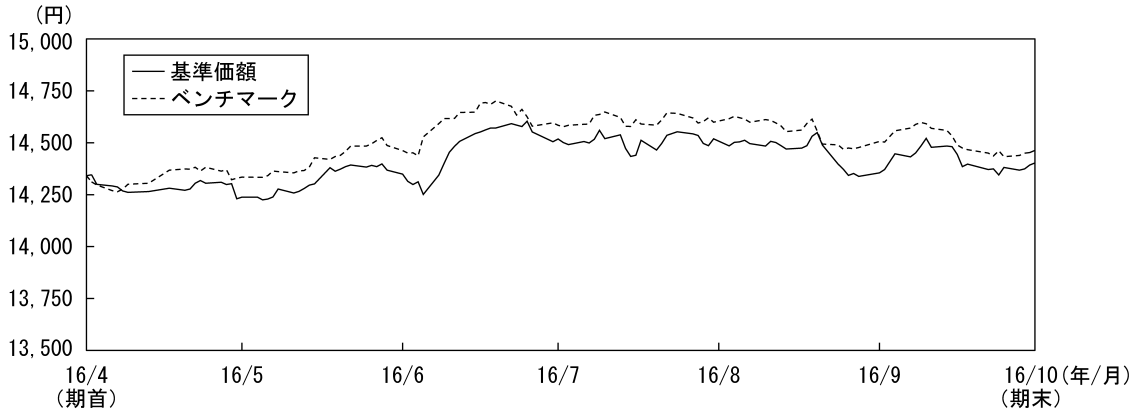
(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%)は、2001年11月29日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

運用経過

■基準価額等の推移について（2016年4月21日～2016年10月20日）



（注1）ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替円ヘッジ、円ベース）80% + 1ヵ月円LIBOR20%です。

（注2）ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の14,341円から62円上昇し、期末には14,403円となりました。

上昇要因

ベンチマーク構成国の債券価格が総じて上昇（利回りは低下）したことや債券国別配分戦略および資産間配分戦略のプラス寄与などが基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

通貨配分戦略のマイナス寄与などが基準価額の下落要因となりました。

■投資環境について

<海外債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは概ね低下しました。

期の前半は、5月の米雇用統計における非農業部門雇用者数が市場予想を下回り、米国の利上げ観測が後退したことや、英国の国民投票がEU（欧州連合）離脱に決したことなどから、利回りは低下しました。期の後半は、米国の概ね堅調な経済指標やFRB（米連邦準備制度理事会）高官の発言などから米国の利上げ時期を見極める流れとなり、緩やかな上昇傾向となりましたが、期を通じては低下する結果となりました。

＜外国為替市場＞

外国為替市場では、主要通貨が対円で下落しました。

期初から7月上旬にかけては、米国の早期利上げ観測が後退した一方で、日銀が追加緩和を見送ったことや、英国のEU離脱決定を受けて安全資産とされる円の需要が高まったことなどから、米ドル、ユーロともに円に対して下落する展開となりました。その後は、各国中央銀行の金融政策動向を巡って一進一退の展開となり、結局、米ドル、ユーロともに前期末より対円で下落して期を終えました。

■ポートフォリオについて

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行いました。

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率を機動的に変更しました。

債券国別配分戦略

当期の債券国別配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラスとなったものと推定しています。期の前半に英国をオーバーウェイトとしたことや、期を通じてドイツを概ねアンダーウェイトとしたことが主なプラス要因となりました。一方、期の後半にオーストラリアおよびフランスを概ねオーバーウェイトとしたことが主なマイナス要因となり、戦略全体としてはプラスとなりました。

通貨配分戦略

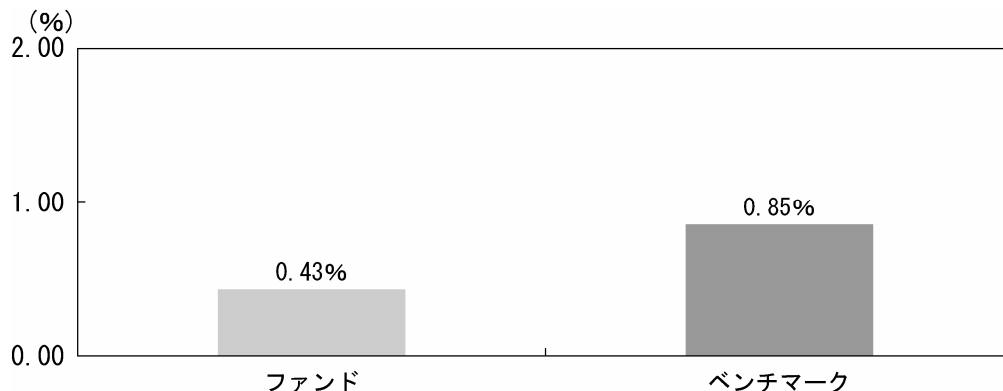
通貨配分戦略は、債券国別配分戦略とは独立して行います。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して弱気の見通しであれば、米国債券にはオーバーウェイトとすると同時に、米ドルをアンダーウェイトとするということになります。当期の通貨配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにマイナスとなったものと推定しています。期を通じて英ポンドやユーロをアンダーウェイトとしたことなどがプラス要因となりましたが、期を通じてスウェーデン・クローナやノルウェー・クローネをオーバーウェイトとしていたことなどがマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

資産間配分戦略

世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略は、世界債券についてモメンタムの観点での評価などから期を通じてオーバーウェイトとしました。当期の資産間配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラスとなったものと推定しています。

■ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



当期の本ファンドのパフォーマンスは+0.43%となり、ベンチマーク（+0.85%）を下回りました。当期においては、債券国別配分戦略および資産間配分戦略がプラス寄与となった一方、通貨配分戦略がマイナス寄与となりました。

今後の運用方針について

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行います。

債券国別配分戦略

債券国別配分戦略においては、イタリアやフランスに対して強気の見通しとする一方で、ドイツや米国に対して弱気の見通しとしています。イタリアに対してはモメンタムやマクロの観点から、フランスに対してはマクロの観点から強気の見通しとしています。一方、ドイツに対してはバリュエの観点から、米国に対してはモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

通貨配分戦略

通貨配分戦略においては、ノルウェー・クローネやオーストラリア・ドルに対して強気の見通しとする一方で、ユーロやスイス・フランに対して弱気の見通しとしています。ノルウェー・クローネやオーストラリア・ドルに対してはバリュエや資金フローの観点から強気の見通しとしています。一方、ユーロに対してはマクロの観点から、スイス・フランに対してはバリュエの観点から弱気の見通しとしています。

資産間配分戦略

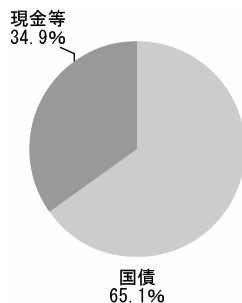
世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略では、世界債券に対してモメンタムの観点から強気の見通しとしています。

（上記見通しは2016年10月20日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

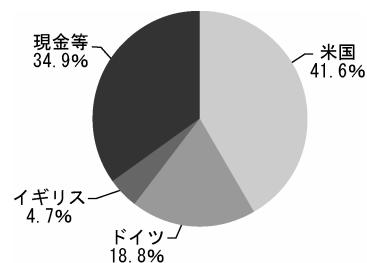
本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2016年10月20日現在）

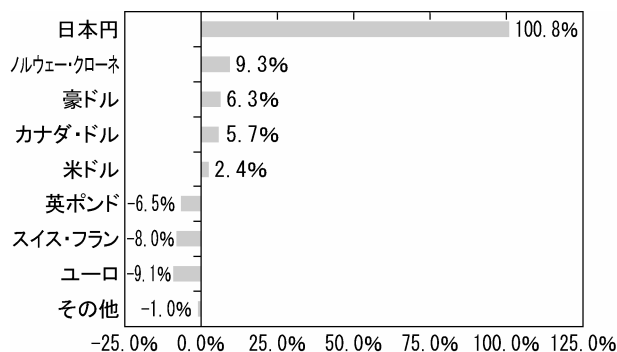
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：7銘柄）

	銘柄	種別	通貨	構成比
1	アメリカ国債 8.75% 2020年8月15日	国債	USD	20.9%
2	アメリカ国債 6.25% 2030年5月15日	国債	USD	18.9%
3	ドイツ国債 6.5% 2027年7月4日	国債	EUR	10.8%
4	ドイツ国債 6.25% 2024年1月4日	国債	EUR	8.0%
5	イギリス国債 4.5% 2042年12月7日	国債	GBP	2.5%
6	イギリス国債 8% 2021年6月7日	国債	GBP	2.2%
7	アメリカ国債 8% 2021年11月15日	国債	USD	1.9%
8	—	—	—	—
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2016年4月21日～2016年10月20日		
	金額	比率	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	1円 (1) (0)	0.009% (0.007) (0.002)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (その他)	1 (1) (1)	0.009 (0.004) (0.005)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	3	0.018	
期中の平均基準価額は14,418円です。			

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買及び取引の状況(2016年4月21日から2016年10月20日まで)

(1) 公社債

			買付額	売付額
外国	アメリカ国債証券		千米ドル 29,373	千米ドル 20,416
	ユーロ ド	ドイツ国債証券	千ユーロ —	千ユーロ 7,256
	イギリス国債証券		千英ポンド 1,764	千英ポンド 3,351

(注) 金額は受渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(2) 先物取引の銘柄別取引状況

			買 建		売 建	
			新 規 買付額	決 済 額	新 規 売付額	決 済 額
国内	債券先物取引	1 0 年 国 債 標 準 物	百万円 7,746	百万円 8,652	百万円 —	百万円 —
外国	債券先物取引	米 国 国 債 先 物 1 0 年	—	198	6,366	4,808
		カ ナ ダ 国 債 先 物 1 0 年	1,074	1,168	193	—
		オーストラリア国債先物10年	2,918	2,869	561	564
		英 国 国 債 先 物 1 0 年	1,330	1,719	2,855	2,813
		イ タ リ ア 国 債 先 物 1 0 年	4,465	3,082	—	—
		ド イ ツ 国 債 先 物 1 0 年	—	—	5,295	5,568
		フ ラ ン ス 国 債 先 物 1 0 年	6,417	5,233	—	—

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 外国の取引金額は、各月中の取引額を当該月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

■ 利害関係人との取引状況等 (2016年4月21日から2016年10月20日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■組入資産の明細(2016年10月20日現在)

(1) 公社債

A 債券種類別開示

外国(外貨建)公社債

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ア メ リ カ	千米ドル 29,956	千米ドル 41,469	千円 4,298,700	% 41.6	% —	% 20.7	% 20.9	% —
ユ ー ロ	千ユーロ	千ユーロ						
ド イ ツ	10,685	17,091	1,943,255	18.8	—	18.8	—	—
イ ギ リ ス	千英ポンド 2,596	千英ポンド 3,802	484,614	4.7	—	2.5	2.2	—
合 計	—	—	6,726,570	65.1	—	42.1	23.0	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 金額の単位未満切捨て。

(注3) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

B 個別銘柄開示

外国(外貨建)公社債

種 類	銘 柄 名	当 期 末				
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日
				外貨建金額	邦貨換算金額	
国 債 証 券	(アメリカ)	%	千米ドル	千米ドル	千円	
	US TREASURY N/B 6.25%	6.25	12,382	18,801	1,948,996	2030/5/15
	US TREASURY N/B 8%	8.0	1,398	1,859	192,713	2021/11/15
	US TREASURY N/B 8.75%	8.75	16,176	20,808	2,156,990	2020/8/15
	小 計	—	—	—	4,298,700	—
国 債 証 券	(ユーロ…ドイツ)		千ユーロ	千ユーロ		
	DEUTSCHLAND REP 6.25%	6.25	4,893	7,255	824,898	2024/1/4
	DEUTSCHLAND REP 6.5%	6.5	5,792	9,836	1,118,356	2027/7/4
	小 計	—	—	—	1,943,255	—
国 債 証 券	(イギリス)		千英ポンド	千英ポンド		
	UK TREASURY 4.5%	4.5	1,298	2,055	261,920	2042/12/7
	UK TREASURY 8%	8.0	1,298	1,747	222,693	2021/6/7
	小 計	—	—	—	484,614	—
	合 計	—	—	—	6,726,570	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 金額の単位未満切捨て。

(2) 先物取引の銘柄別期末残高

銘 柄 別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
国 内		百万円	百万円
	1 0 年 国 債 標 準 物	2,733	—
外 国	イ タ リ ア 国 債 先 物 1 0 年	2,163	—
	ド イ ツ 国 債 先 物 1 0 年	—	1,452
	米 国 国 債 先 物 1 0 年	—	1,431
	英 国 国 債 先 物 1 0 年	64	—
	カ ナ ダ 国 債 先 物 1 0 年	—	194
	フ ラ ン ス 国 債 先 物 1 0 年	1,656	—
	オーストラリア国債先物10年	106	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 単位未満切捨て。

(注3) —印は組入れなし。

■投資信託財産の構成

2016年10月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	6,726,570	63.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,810,883	36.2
投 資 信 託 財 産 総 額	10,537,453	100.0

(注1) 当期末における外貨建純資産（7,281,520千円）の投資信託財産総額（10,537,453千円）に対する比率は69.1%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは1米ドル=103.66円、1カナダドル=78.89円、1ユーロ=113.70円、1英ポンド=127.45円、1スイスフラン=104.76円、1オーストラリアドル=79.91円です。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末
	2016年10月20日
(A) 資 産	27,804,969,808円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,382,643,790
公 社 債 (評 価 額)	6,726,570,169
未 収 入 金	17,447,976,040
未 収 利 息	114,213,919
前 払 金	200
差 入 委 託 証 拠 金	133,565,690
(B) 負 債	17,472,442,550
未 払 金	17,467,496,183
未 払 解 約 金	4,938,298
未 払 利 息	8,069
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	10,332,527,258
元 本	7,174,035,494
次 期 繰 越 損 益 金	3,158,491,764
(D) 受 益 権 総 口 数	7,174,035,494口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,403円

■損益の状況

項 目	当 期
	自2016年4月21日 至2016年10月20日
(A) 配 当 等 収 益	176,844,051円
受 取 利 息	178,138,707
そ の 他 収 益 金	84,023
支 払 利 息	△ 1,378,679
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 124,941,146
売 買 益	853,947,043
売 買 損	△ 978,888,189
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	△ 556,766
取 引 益	175,010,397
取 引 損	△ 175,567,163
(D) 信 託 報 酬 等	△ 1,195,517
(E) 当 期 損 益 金 (A + B + C + D)	50,150,622
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	3,246,821,651
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	102,392,551
(H) 解 約 差 損 益 金	△ 240,873,060
(I) 計 (E + F + G + H)	3,158,491,764
次 期 繰 越 損 益 金 (I)	3,158,491,764

(注1) 損益の状況の中で (B) 有価証券売買損益および (C) 先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で (G) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で (H) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。

(注4) 期首元本額は7,479,956,585円、当作成期間中において、追加設定元本額は236,213,590円、同解約元本額は542,134,681円です。

(注5) 元本の内訳 ガリレオ 5,249,808,326円

DC ガリレオ 1,924,227,168円